

# 「学びの变革」指導事例

## ＜基本情報＞

- ◇教育課程 音楽科
- ◇学年 中学部 単一障害学級 第2学年(5名)
- ◇単元名 「音の響きを感じよう」
- ◇目指す姿 『気付き、考える姿』
- ◇単元の目標 ○鑑賞及び身体・歌唱表現を通して音楽を味わい、音の響きに関心を持ちながら表現することができる。
- ◇本時の目標 ・ハンドベル、トーンチャイムでタイミングを意識しながら音を鳴らすことができる。
- ◇生徒の実態 本学級は男子2名、女子3名の計5名で編制している。全員、知的障害があり、自閉症を併せ有している者もいる。楽器を用いてのリズム打ちでは、実態に合わせてリズムを指定し、リズム打ちをすることができてきた。聴いてリズムを合わせたり、曲の流れの中で音を出したりする表現力が付いてきている。実態に差があるので、実態に合わせた課題設定や手立てが必要である。

## ＜学習過程(抜粋)＞

学習活動	指導上の留意点 □課題 ○支援 ☆評価			
	A	B	C	全体
6 器楽演奏 「きらきら星」	模造紙楽譜を指導者が指差し、ハンドベル、トーンチャイムを鳴らすべきタイミングで鳴らすことができる。	模造紙楽譜を見ながらハンドベル、トーンチャイムを鳴らすべきタイミングで鳴らすことができる。	模造紙楽譜を見ながらハンドベル、トーンチャイムを鳴らすべきタイミングで鳴らすことができる。	○模造紙楽譜を貼る。 ○ハンドベル、トーンチャイムの練習を行う。 ○タイミングの指示を出す。
8 振り返り	○頑張ったことを発表させる。	○頑張ったことを発表させる。	○頑張ったことを発表させる。	○一人ずつ頑張ったことを評価する。

歌唱指導「もみじ」では、色合いの美しさを感じさせ、歌詞の意味を理解させて歌わせたい理由から、紅葉の色合いの違うもみじの葉の実物を生徒に鑑賞させるなど工夫していました。

生徒が担う音階のハンドベルの色が分かる演奏用の楽譜を使用していました。そのため、生徒が自信を持って自分のパートを演奏することができ、数回の練習後、ほぼリズムよく「きらきら星」を演奏できていました。

器楽演奏は、生徒が視覚的に自分のパート（色別で示した音階）のタイミングが分かる模造紙楽譜を使用したことで、演奏としての目標を達成することができていた。さらにこの学習場面で、生徒に感想や意見を求めてみることで、教師のみの評価ではなく生徒自身の評価から「さらに演奏をよくしてみよう」、「自分もこの音が鳴らしたい」等の生徒が主体的に参加する学習活動に発展していく可能性がある。振り返り活動も頑張った活動自体を発表させるのではなく、活動の何を頑張ったか、何が楽しかったか等、生徒が考えて発表できる場面を設定したい。